

自動車の水素利用はさまざま



水素供給所の資金を確保しても

肝心の水素自動車の入手が難しい

ニューヨーク州のシラキュース市が、複数の研究機関と共同で、同市にある CNG 供給所にハイタンおよび水素の供給設備を付加します。

ニューヨーク州エネルギー調査開発局の補助金を得て、「本来なら、昨年 11 月に水素供給所が完成していたはずだった」(2007 年 11 月 26 日、The Post Standard/Herald-Journal) そうです。

遅れの理由は水素自動車がなかなか入手できないことです。

同市は Ford の水素内燃エンジンを搭載したバスを希望していたのですが、生産能力に限りがあってリースが難しい状況なので、方向を変えてハイタン車を導入することにしました。

ハイタンは

天然ガスに水素を混合した自動車燃料で、英語は Hythane です。

Hythane は、オーストラリアのエネルギー会社 Eden Energy が保有する登録商標で、同社は天然ガスに水素 20%を混合した自動車燃料およびその製造設備、システムを販売しています。

しかし、米国では Hythane は、天然ガスに水素を混合した自動車燃料の一般名詞としても使用されています。

例えば 2005 年エネルギー政策法は 1823 条で、バイオディーゼル油および Hythane の市場性の調査をエネルギー省に命じています。

また、エネルギー省は 2006 年に、内燃エンジンに対する Hythane および水素の長期的な影響の試験を Hythane Company (Eden Energy の米国子会社)、Hydrogen Components および

(Web 公開)「世界のエネルギーの話題」(2008 年 6 月 21 日)

コロラド州立大学に委託しています。

カリフォルニア州では

サンフランシスコ国際空港が、「Hythane Company および BAF Technologies と共同で、同空港のシャトルバス(ガソリン車、ディーゼル車)をハイタン車に切り替え」(2007 年 12 月 6 日、PRNewswire)ます。

バイエリア大気環境管理地区が補助するこの実証プログラムは、14 台のハイタンバスを走行させます。

そしてインドで

国営石油会社 Indian Oil が、ハイタンおよび水素を供給する設備をニューデリーに設置中です。

Eden Energy が工事を受注しました。

インドでは、深刻な大気汚染に対処するため、最高裁が 2000 年 4 月までにデリーを走行する公共バスの燃料をディーゼル油から圧縮天然ガス(CNG)に全面的に切り替えるように命じたことが大きな転機となって、デリーなどの都市で CNG 車の導入が進んでいます。

ハイタン車は CNG 車に比べて CO₂ の排出量が 20%少ないとされており、CNG 車に手を加えるだけのハイタン車に、水素社会の到来までの「つなぎ」の役割が期待されています。

CNG バスも製造しているインドの大手自動車会社 Ashok Leyland が、「Eden Energy から技術を導入してハイタン車を開発して」(2007 年 6 月 1 日、Ei EnCompass: Automotive)います。

ひとこと

燃料電池車、水素自動車のような華やかさはありませんがハイタン車も健闘しています。

アジアではインドのほか、中国およびパキスタンで話題になっています。

(YY)

(Web 公開)「世界のエネルギーの話題」(2008 年 6 月 21 日)

本レポートは、世界の 2500 紙以上の新聞、5500 紙以上のビジネス紙および業界紙、600 以上のニュースワイヤー(速報)/プレスリリース等を検索できるファクティバ(ダウ・ジョーンズ社のデータベースサービス)を利用して入手した多数の記事、レポートを比較、分析して執筆しています。(山崎由廣)